

人口減少への危機感

(※)デジタル田園都市国家構想：地方を中心に、人口減少・少子高齢化、過疎化・東京圏への一極集中、地域産業の空洞化といった課題に直面している中、デジタル技術の活用により、地域の個性を活かしながら、地方の社会課題の解決、魅力向上に取組み、地方活性化を目指す構想

魅力のある教育とは？町民と子供たちのスポーツ環境は？子育て環境は？住む環境は？観光経済はどうやって活性化する？農家さんは何を必要としている？みんながもっと明るく楽しく住める町になるには？なんて考えています。

「住みたい！」と思ってもらえる町にできるのか、自分自身、寝ても覚めても考えています。

日々、さまざまな方にお会いし、山ノ内町の現在の課題や未来について議論を交わしています。先日は須坂市長と一緒に内閣府に伺い、デジタル田園都市国家構想(※)の話聞いてきました。

町長に就任して3ヶ月が経ちました。

しろくま

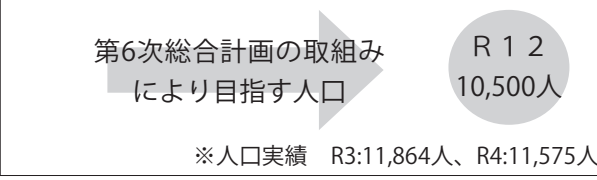


人口減少

町の将来人口推計 (国立社会保障・人口問題研究所)



第2期山ノ内町人口ビジョンによる推計



今アメリカは稀に見るスキーブームです。山ノ内町と姉妹提携しているベイル町。大きなスキー場があることで有名ですが、そのベイルスキー場の運営会社、ベイルリゾートが発行するシーズン券エピックパス(アライアンスのリフト券)の発券枚数が、22-23シーズンが始まる前の12月時点で230万枚を記録したそうです。18-19シーズンが95万枚でしたので、コロナ前の倍以上の売り上げです。アメリカの友達を送ってくれたスキー場の朝のリフト待ちの列の写真は、まるで昔の日本のスキー場のようです。

そんなアメリカのスキーブーム、コロナが明けたことも理由の1つかと思いますが、西海岸の大都市が暑くなりすぎて、コロラド州のデンバー市に引越す会社や人が増えたことも要因のようです。

それに加え、エピックパスを購入すると、北米の50ヶ所のスキー場が滑れるだけではなく、白馬バレー7つのスキー場が滑れる5日券がついてくることです。230万人

が白馬バレーの5日券を持っているというところで、次のシーズン、白馬には北米からのスキーヤーが多く来ると予想しています。山ノ内町のスキー場はそのアライアンスには参加していませんが、インバウンドによる平日の宿泊施設の稼働率上昇を考えると、北米のアライアンスに加盟すべきだと思っています。

アメリカはスキーブーム？



町HP ↓
申込みは
こちら ↓

7月に「町長と語る会」を開催します。まずは現在の町政でどのようなことが進行中なのか、という説明をさせていただきます。いただいた後に、町民の皆さんと私が意見交換ができるような会をイメージしています。私からは、直接現在進行中のプロジェクトの話ができ、皆さんの声も直接聞ける良い機会だと思っていますので、ぜひご参加ください。

「町長と語る会」を開催します

町では7日、運動という観点から町民の健康を長年見守っていただいているアスレティックトレーナー関賢一先生を健康大使としての『つなぎびと』に任命しました。

関先生には、20年以上続けている運動相談で、町民の身体の不調などの悩みの相談に応じ、運動を通じた健康づくりにつなげていただいています。また、平成28年からは、町内の保育園における子どもたちの体力づくり、中学校での体操教室を始め、地域スポーツの力が防止を目的とした活動を続けていただいています。

豊かな生活につながることを期待しています。

関先生の活動を継続して広く知らしめることで、健康寿命の重要性を周知するとともに、子どもたちが理論に基づいた運動を通じて体力を身につけること、豊かな生活につながることを期待しています。

つなぎびとに任命した関先生(左)と平澤町長

『つなぎびと』を任命

令和5年6月 広報 やまのうち 2